

こもれび

autumn
2012
創刊号



手には技術
頭には知識
患者様には愛を

koganei rehabilitation Hospital
INFORMATION



社団法人 巨樹の会

小金井リハビリテーション病院開院

ゲストをお迎えして盛大に行われた開院式典の様をお伝えします。

院長あいさつ
開院式典を振り返って
山田先生インタビュー
こもれび TOPICS

ミニコンサート
看護部夜勤研修
練習試合
慰労会
医師紹介

医療連携室から



小金井リハビリテーション病院

院長あいさつ

小金井リハビリテーション病院は、その母体である社団法人「巨樹の会」の、関東では5番目の回復期リハビリテーション専門病院として、全国でも最大規模の220床を備えて2012年5月7日に開院しました。5月14日の患者受け入れから89日目の8月10日には満床を迎え、この間にも多くの患者の機能回復に力を尽くしてきました。回復期リハビリテーション病棟入院料3の算定が始まった7月1日から8月19日までの退院患者87名の在宅復帰率は87%、さらに入院時の日常生活機能評価得点が10点以上の重症患者は28名(32%)で、このうち13名(47%)の重症患者が退院時には日常生活機能を取り戻しており、すでに回復期リハビリテーション病棟入院料1の施設基準を満たす実績をあげています。この成績はわれわれ職員の誇りであり、高く評価されるべき地域社会への貢献であると考えています。

リハビリテーションを広辞苑では、「治療段階を終えた疾病や外傷の後遺症を持つ人に対して、医学的・心理学的な指導や機能訓練を施し、機能回復・社会復帰をはかること。更生指導。」と説明しています。それまで健康な生活と社会活動を営んできた方が、病気や外傷によって歩けない、手が使えない、会話ができない、などの障害を持ったとき、そ



の方の心の中は、こうした体のハンディキャップによる挫折感、将来に対する不安、などで混沌としているのではないのでしょうか。家族もまた、これから先にどのような生活が待っているのか、大きな不安を抱えています。

「医学の父」と呼ばれる、紀元5世紀末のギリシャの医師ヒポクラテスの、有名な「ヒポクラテスの誓い」は、今でも医療に携わるものの倫理的な規範とされています。この「誓い」は、欧米の大学病院では石碑に刻まれているくらいですから、決して長い文章ではありません。その短い文章の中で、繰り返して2度にわたって、医療の目的を”for the good of my patients”「わたしの患者の福祉のため」と述べています。われわれ小金井リハビリテーション病院のすべての職員は、「障害を負った患者と家族の挫折感と不安に共感し、障害の克服に向かって希望の持てる入院生活を提供すること」を目標とし、「われわれの患者と社会の福祉のために」を標語として、明るい病院環境をつくることに努めていきます。



小金井リハビリテーション病院
病院長 中島 雅士



topics
01

開院式典を振り返って

去る5月12日(土)に当院の開院式典を執り行いました。当日は天候が心配されましたが、やや風はあったものの、「風薫る5月」の過ごしやすい晴天でした。

事前に、様々な場所で多くの方々に当式典のご案内をさせていただきましたが、当日はどれだけの方にお越しいただけるかを危惧しておりました。しかし、開始予定の1時間前から多くの方にお越しいただき、最終的な来場者は約2,000名を数えました。式典では、地元選出の元総理大臣菅直人氏をはじめ、多くの来賓の方々にご挨拶をいただきました。地元の皆様による東京都無形文化財指定『貫井囃子』の余興もすばらしく、当式典に花を添えていただきました。たこ焼き・ヨーヨー等の出店の前では長蛇の列ができるなどお子様にも大変好評で、とても盛大ですばらしい式典になったのではないかと自

負しております。病院内覧会では、充実した設備と広いスペースに感嘆していただき、地域の多くの方々に開院をアピールする本当に良い機会となりました。

多くの来場者の方々にはご満足いただけたと思いますが、その一方で病院設備や式典運営について、いくつかの貴重なご意見をいただきました。皆様のご助言を今後の病院運営にしっかりと反映させていきたいと考えております。

今回の内覧会・開院式典を通じてわれわれスタッフはたくさんのことを学び、そして結束力を高めることができました。今後も患者様のためにスタッフ一丸となって、地域の回復期リハビリテーション医療の中核を担えるよう精進と挑戦を続けていきたいと思っております。



小金井リハビリテーション病院
リハビリテーション科

鬼塚 北斗



インタビュー

回復期について

関東グループ病院で8施設目となる「小金井リハビリテーション病院」が5月7日に開院となりました。そこで社団法人巨樹の会の山田達夫関東統括本部長に話を伺いました。

山田達夫
↑
宇田菜穂

社団法人巨樹の会 関東統括本部長

インタビュー
小金井リハビリテーション病院 副院長

宇田：幼少期はどのように過ごされましたか？

また、医師を志したきっかけは？

山田：昭和23年山梨県北杜市で出生しました。当法人保養所になっております「白州の家」が出生場所です。両親ともに医者で、戦前戦後この場所で開業していました。馬に乗って往診というスタイルでした。馬小屋は現在私の寝室である場所にありました。5歳からは甲府に転居して中学まで生活、高校は東京の教育大学駒場高校（現在の筑駒）に進学しました。ガリ勉であり、両親が医師であったため必然的に医師になるものと思っていました。

宇田：神経内科・認知症専門医としてどのような取り組みをされてきましたか？

山田：東京医科歯科大学を卒業して神経内科を志し、20年前からは認知症医療に取り組んでいます。「医療はホスピタリティーであり、決して画一的でないが故に、その人の人生と向き合いながら、大変長い時間をかけて患者様・ご家族様との信頼醸成のなかで成立していくもの」という認識のもとで、予防から疾病治療まで。また、医療機関においてのみでなく地域社会の中でも活動してきました。神経難病や認知症を来す疾患が対象でありました。

宇田：今までと全く違った回復期リハビリテーション分野はどう見えますか？

【略歴】

- 山田 達夫(やまだ たつお) ●昭和23年生まれ ●山梨県出身 ●神経内科認定医
- 昭和49年:東京医科歯科大学医学部卒 ●平成9年:福岡大学医学部神経内科学教室 教授
- 平成23年:社団法人巨樹の会 関東統括本部長

comorebi topics

こもれびトピックス

小金井リハビリテーション病院の出来事アレコレ。



「ピアノ演奏」

Mini Concert

ミニコンサート

topics
02



患者様から入院生活に満足されたとの言葉をいただき、そのお礼になればと、ピアノ演奏の経験があるのを活かして一階にあるピアノで演奏をしていただきました。ふだんあまりレクリエーション参加に乗り気でない患者様も、音楽が始まると目を輝かせてそのメロディに聞き入っていらっしゃいました。普段一階では、ピアノが自動演奏でさまざまな音楽を奏でてくれますが、人の手によって奏でられる音はまた違った趣があって、やはりいいものですね。



「看護部」

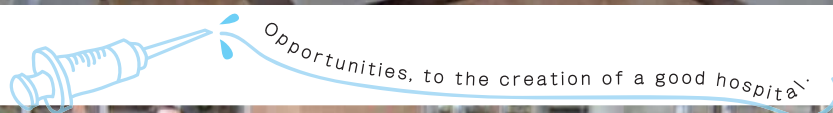
Night shift training

看護部実務夜勤研修

topics
03

九州の関連グループより、31名の看護師が4グループに分かれ病院見学、実務研修で来院されました。また蒲池会長も来院されましたので、一緒に記念撮影しました。

関東と九州の交流で、それぞれ1泊2日と短い期間でしたが、当院について見てもらい、有意義な意見交換ができました。今後もこのような機会を設け、いい病院作りに役立てていきたいと思ひます。



「初勝利」

topics
04

Baseball 練習試合

リハビリテーション科 廣田 雄也



7月28日(土)午後7時より、病院近くの武蔵野公園野球場にて、明生リハビリテーション病院野球部と草野球の練習試合を行いました。



試合は、両チーム共に業務終了後とは思えないほど元気で、声(野次?)を出し合い盛り上がりました。試合は、当院院長である中島先生の激走や西尾事務長、古野事務長補佐の堅守もあり、4対1で小金井リハビリテーション病院が初戦で初勝利を収めました。

今回の練習試合で、部署間や病院間を超えて様々なスタッフと交流を図ることができました。

今後も野球などのスポーツ活動を通じて、病院全体を盛り上げていきたいと思っております!

topics
05

「慰労会」

a thank you party



7月某日、いつも病院内を清潔に維持してくれる清掃業者の方々、おいしい食事を提供してくれる厨房の方々、患者様とふれあうことが多いケアワーカーの方々に慰労の意味を込めて、バーベキュー大会を催しました。

山田本部長、中島院長をはじめ、医局、看護部、コメディカル、事務と多くの部署が参加し盛大に行われました。

お肉や焼きそば、そして心のこもったおにぎりがふるまわれ、笑顔で和気あいあいとした小金井リハビリテーション病院らしい日となりました。



A doctor's introduction 医師紹介

小金井リハビリテーション病院

■森川信行先生【2階病棟】



子供から大人まで幅広く診療できる総合医を目指しています。専門の代謝栄養学の知識を生かして、より効率的なリハビリテーションができるように患者様の栄養状態の改善を目指します。

趣味：山歩き(日帰り山散歩程度です)
好きな食べ物：刺身(特に青もの)・イチゴ
子供の頃の夢：オリンピックの陸上選手

nobuyuki morikawa

日本外科学会専門医 / 日本小児外科学会指導医
1994年 Harvard 大学 Massachusetts 総合病院留学
1996年 日本外科代謝栄養学会賞受賞
1998年 慶應義塾大学外科刀材賞受賞

■金隆志先生【3階病棟】



趣味：ゴルフ・コンピューター(マシンの自作)
好きな食べ物：韓国家庭料理
子供の頃の夢：宇宙飛行士になること
(旧ソ連のガガーリン少佐に憧れた)

takashi kin

日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会専門医リウマチ認定医
日本整形外科学会専門医スポーツ認定医
日本リウマチ財団登録医

■川内基裕先生【4階病棟】



ノルディックウォーキングを用いると楽に安定した歩行が可能です。

趣味：ノルディックウォーキング・テニス・水泳
好きな食べ物：カップヌードル・うなぎ

motohiro kawauchi

日本外科学会専門医 / 認定医
日本胸部外科学会指導医
日本呼吸器外科学会指導医
心臓リハビリテーション指導士

■下川京実先生【非常勤】



循環器合併症のある方の診療を中心に、微力ながらお手伝いさせていただきます。

趣味：読書
好きな食べ物：甘い物
子供の頃の夢：ケーキ屋さんになること

kyouko shimokawa

日本循環器学会循環器専門医
日本心臓リハビリテーション学会指導員

医療連携室から

患者様のために地域に根差した 献身的なサポートを目指して。

当院では医療連携室を設置し、患者さんの入退院がスムーズに行えるよう日々努力しています。

地域の医療福祉機関との連携を深め、看護師や社会福祉士の資格を持った医療ソーシャルワーカーを配置し他医療機関からの患者さんのご紹介への対応や、退院されるまでの過程において、他職種(医師・看護師・リハビリスタッフ等)と連携をとり、入院中・退院後に必要なサービスや諸手続きの情報提供、医療・福祉施設や在宅医療・福祉サービス提供事業者への連携をさせていただきます。

当院ご入院中の患者さんやご家族で、転院や在宅療養についてご不安や疑問のある方はお気軽にお尋ね下さい。まごころを込めてお答えし、皆様の不安や悩みを解決を目指してお手伝いいたします。また、医療保険制度や介護保険制度、障害福祉制度など各種制度についてのご質問もお気軽にお尋ね下さい。

入院から退院まで私たちが懸命に
サポートいたします！



■ 小金井リハビリテーション病院 医療連携室
TEL 042-316-3100(直通)

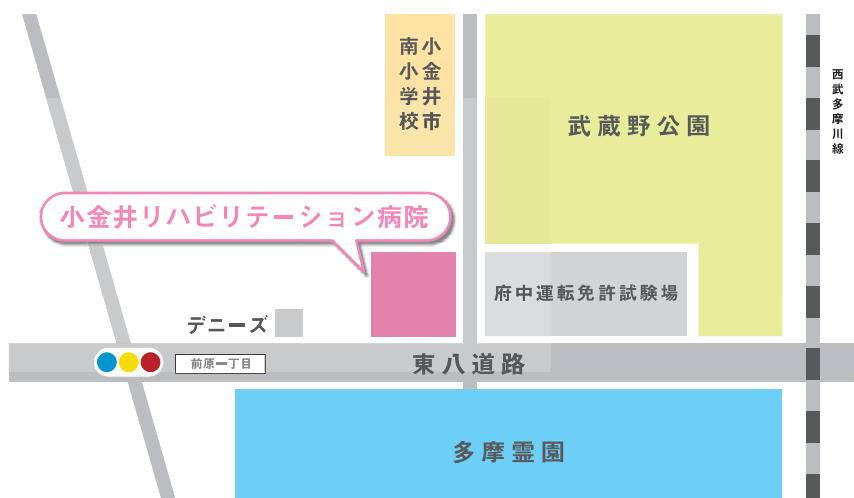
COMOREBI
Vol.1

小金井リハビリテーション病院周辺のご紹介——for koganei city

小金井リハビリテーション病院の最寄り駅、中央線武蔵小金井駅は 2009 年に生まれ変わったばかり、明るく開放的な駅です。電車の発車メロディーは、地元の小金井桜にちなんだ日本の代表的な「さくらさくら」が流れています。

南口の駅周辺も再開発され、飲食店や和菓子屋などが入った「アクウェルモール」、成城石井やカフェ、書店などが入った「セレオ武蔵小金井」があります。アクウェルモールを抜けると奥には大規模なイトーヨーカドー、さらに北口に西友、そして東京では唯一の長崎屋もあり、武蔵小金井駅周辺ではお買い物に困ることはありません。他にも商店街など様々なお店が充実していますので、ショッピングスポットを見つけるのが楽しくなりそうです。

アクセスマップ



JR 武蔵小金井駅



イトーヨーカドー



長崎屋と SEIYU

社団法人 巨樹の会

小金井リハビリテーション病院

〒184-0013 東京都小金井市前原町1丁目3番2号

TEL 042-316-3561 / FAX 042-316-3562

http://www.koganei-rh.net/ info@koganei-rh.net

小金井リハビリテーション病院

検索